



干潟（ひがた）とは、河口付近での満潮（まんちょう）のときに水にひたされ干潮（かんちょう）のときに陸上に現れる泥（どろ）や砂（すな）でできた浜（はま）のことをいいます。干潟には、ほかの場所で見ることができないめずらしい植物や動物がすんでいます。最近、河口や海岸の工事のために、全国的に干潟の自然が失われていますが、大分市に残されている干潟には、今でも自然の動物や植物が生活しているのです。

植物ではハママツナ・ハマサジ・フクド・ナガミノオニシバなどが、環境のちがうところにそれぞれ群落（ぐんらく）をつくっています。

このような植物や打ち上げられたゴミ・藻類（そうるい）などを食物として、トビムシ・ゴカイ・カニ・貝の仲間が多く生活しています。とくにカニ類の生活や行動の仕方はとても興味深いものがあります。

また、このような小動物を食べにたくさんの鳥たちがやってきます。干潟は春と秋の渡り鳥の大切な休憩（きゅうけい）場所でもあるのです。